Vol.63 Winter

SAKUYO GAKUEN NEWS

作陽学園報

くらしき作陽大学／作陽音楽短期大学／岡山県作陽高等学校

平成25年4月、くらしき作陽大学附属幼稚園が
倉敷キャンパス内に開園します。
（認可申請中）

■くらしき作陽大学附属幼稚園
平成25年4月1日、開園…2頁
■「高橋秀画伯と菩薩道」…4頁
学校法人作陽学園
理事長　松田英毅
■「大学改革における学習から
学修への転換」……5頁
くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学
学長　有本　章
■「『演奏芸術センター』の役割」
……6頁
演奏芸術センター長　山下耕司
■「産学連携にむけた
最近の諸活動」……7頁
商品開発交流研究センター長　原田節也
■「大学院音楽研究科からの
御礼と近況報告」…8頁
くらしき作陽大学大学院
音楽研究科長　竹内京子
■「作陽音楽短期大学
演奏会のお知らせ」……8頁
作陽音楽短期大学
音楽学科長　丹代　茂
■「岡山県作陽高等学校」
……9～11頁
■鶴声会だより・翠会だより・
高校同窓会・在学生の活躍
……12～13頁
■第16回翔陽祭、作陽キッズ
キャンパス2012 開催……14頁
■演奏会のご案内……15頁

発行所
学校法人作陽学園
岡山県倉敷市玉島長尾3515　TEL.086・523・0888（代）

くらしき作陽大学附属幼稚園

認可申請中

くらしき作陽大学 倉敷キャンパス内に

平成25年4月1日、開園

幼稚園設立にあたって

学園長　松田英毅（まつだひでき）

この度、多くの方々の理解と賛同を得て、くらしき作陽大学附属幼稚園を新設することとなりました。子ども教育学部はもとより大学全体がより活気が増すことと思われます。

二十一世紀に入り、科学技術をはじめ経済も教育も大きく発展してきましたが、日本をはじめ西欧諸国の社会も混迷を深めている感がします。これまで人類が築いてきた“知の社会”には何か欠陥があったのではないかと思われます。

八十二年前、松田藤子先生が「念願は人格を決定す　継続は力なり」のことばを教育の原点にして本学園を設立されました。このような時代だからこそ、幼稚園においてもこのことばをしっかりと小さい子どもたちに教えよとの創立者の声が響いてくるようです。事実のみでなく真実と真理を与える教育、知識のみでなく智慧を教える教育を怠るな。真実・真理と智慧を与えない教育は頭でっかちの人間ばかりを作ることになる。そのような人達からなる社会は、高学歴の人や賢人が多くなっても、心豊かな、真に発展した社会は築けない。例え学位がなくとも明るく、元気に、思いやりのある、そして人としての大道を歩み切る人を育成することを忘れてはいけない。

社会が混迷を深めている今こそ、大学も高校もそして新設の幼稚園でも、建学の精神に沿った教育が強く求められていると思います。

「念願は人格を決定す　継続は力なり」の学是も、「菩薩道を歩むプロの養成」という本学の使命も、法に依れ！人に依らざれ！ということです。法とは仏法のことであり、学是の「念願」とは仏法にそった念願です。宇宙の真理であり、わが子を真の人間にせずにはおれない、厳父の念（おも）い、慈母の願いがその根底にあります。菩薩道は真の人間を目指す道です。

今一度、本学園の教育の原点に立ち返り、新設する幼稚園の教育を進めていきたいと考えていますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

先進の教育環境で
豊かでしなやかな心を育てる

教育方針

明るく、やさしく、たくましく

「自然と共に、友だちと仲良く遊ぶ」をモットーとし、いつでも明るく思いやりのあるたくましい子どもに育つようみ仏の教えのもとに教育します。

建学の精神

大乗仏教に基づく豊かな人間性の養成

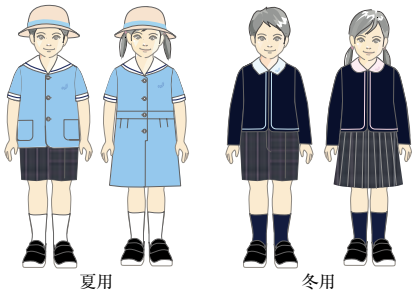
作陽学園の建学の精神を基本とした教育を行います。子どもが将来立派な人になるようにとの熱い願いを持ち、大切なことを継続してやり抜く基本的習慣を身につけさせます。

校　訓

念願は人格を決定す 継続は力なり

子どもの教育に携わる教員と保護者へのことばです。思うように子は育つと言われています。子どもが将来立派な人格の花が咲かせることを念じつつ子育てを続けることが大切です。

制服イメージ



夏用　冬用

【施設・設備】
構　　造　鉄筋コンクリート造
階　　数　2階
敷地面積　5,742㎡
延床面積　1,614㎡
完　　成　平成25年1月下旬

くらしき作陽大学附属幼稚園の特色

くらしき作陽大学にある音楽・食文化・子ども教育の3つの教育資源を活かした幼稚園を展開します。
また、課外活動では英語・造形絵画・体操などの教室も開講予定です。

くらしき作陽大学との連携

大学のそれぞれの学部の学生や教員が色んな形で関わります。音楽の指導や演奏、調理や親子クッキング、幼稚園実習や遊びなど、幅広くレベルの高い関わりがなされます。また課外活動として音楽や語学教室などを行う予定です。

ファミリーコンサート

作陽キッズキャンパス

アウトドア実習

子ども教育学部附属児童文化部
『ぱれっと』

入園案内

募集人数（定員100名）

3歳児	28名（2クラス）
4歳児	36名（2クラス）
5歳児	36名（2クラス）

※平成25年4月は3歳児28名を募集。
　平成26年4月は3歳児28名、4歳児8名を募集、以降同様。

入園料・保育料など（予定）

入園料	40,000円
制服代	30,000円など

保育料	20,000円（月額）
教育充実費	3,000円（月額）
施設設備費	40,000円（年間）

この他、給食費、課外教室代など。

保育時間

平　日	8:30〜14:00

※平日14:00以降、課外教室も行います。
※預かり保育（希望者のみ）も行います。

選考日・選考内容（予定）

選考日	平成25年1月下旬
選考内容	親子面接など
検定料	5,000円

入園のお問い合わせ

くらしき作陽大学附属幼稚園 設置準備室
☎086-436-0278（月〜金 10:00〜16:00）
E-mail youchien@ksu.ac.jp

高橋秀画伯と菩薩道

理事長
松田英毅（まつだひでき）

高橋秀画伯は広島県芦品郡（現福山市）で大きくなられた。裕福な家庭ではなかったので、中学を出るとすぐに働きだした。しかし、どの仕事に就いても、これは自分のすべき仕事ではない、自分のやるべきことはもっと他にあるはずだ、との思いがどうしても頭をもたげ長続きしなかった。ある時、東京から疎開してきていた北川実画伯に招かれ、巨大な絵とゴッホ等の画集を見せられ、驚くと同時にこれこそ自分の探していたものだと直感した。上京して美術学校に入学したものの学校へは行かず、出版社の使い走りのアルバイトをしながら絵を描いていた。そんな時たまたま緑川広太郎画伯に会い、アルバイトをしながらでは本当の絵描きにはなれない、飯くらいはくわせてやるから俺のところに来いと言われ、緑川画伯の家の軒先に小さい小屋を建ててもらい、そこで寝起きして絵画制作に力を入れた。

21才で独立美術協会展に初出品し初入賞し、31才で独立最優秀賞を受けた。同時に絵画の世界の芥川賞とも言われる安井賞を受賞し、安井賞受賞の画家ということで依頼が次々に来るようになった。安井賞受賞作家は画家として安定した生活が保障され、地位と名誉が高まり、益々経済的に豊かになる道を歩むのが普通である。しかし秀画伯は、これでは地位と名誉とお金にあぐらをかいた絵描きになってしまい自分がだめになると思い、この道を断つには日本脱出しかないとして、イタリア政府の給費留学生となりイタリア留学をした。イタリアでは経済的にも困窮の極にあった。そんなときコラージュ作家の奥さんが日本の子ども向け月刊誌の挿し絵や表紙、あるいは絵本づくりで大きな働きをしたのである。

63才の時、日本人では初めてローマ国立近代美術館を使って回顧展を開いた。若い頃から秀画伯をいのちの探求者と見ていた黒住教の黒住教主が、雅楽士と舞姫の一行を連れてローマを訪れ、回顧展会場入り口の特別ステージで祝詞奉上、吉備楽と吉備舞を披露した。会場のイタリア人達を感動と感激で一杯にし、回顧展に花を添えると同時に日本人の奥深い精神文化に触れる機会を与えた。

秀画伯は66才で、縁があって倉敷市玉島の沙美の海辺に自宅とアトリエを構え、日本での若者の指導に当たるようになった。毎年行っているイベントの一つに沙美アートフェストがある。これは沙美海岸に立った時、眼前に広がる瀬戸の海とそこに浮かぶ多くの島影を見て、自分一人で眺めるのは勿体ない、この美しい自然を多くの人に見てもらいたい。こんなところで若い母親と小さな子どもが一緒に絵を描いたらどんなに楽しいであろう、との発想から沙美アートフェストが始まったのである。倉敷市内外から毎年400名近い母子の参加者がある。朝９時から数名の子どものグループ毎に、新聞紙二枚大の用紙に思い思いの絵を一日かけて描くのである。昼は玉島おかみさん会なる団体が奉仕でこさえた弁当がでる。指導は秀画伯とボランティアの学生たちが行う。必要な経費は企業や篤志家の善意でまかなわれている。

この沙美アートフェストは単なるイベントではない。参加した小さな子どもたちの目はキラキラと輝いている。若い母親は我が子の発想と想像力を発見し驚いている。手伝いの学生たちはいきいきと動き、参加した関係者たちはこの上ない喜びで満ちている。秀画伯は、金、名誉、地位そのようなものを超えた仕事ができること、これこそ人の無上の喜びではないかと言う。まさに菩薩道である。玉島は良寛禅師ゆかりの地である。200年ほど前、この地で良寛さまは子どもたちと一緒に遊んだ。それは暇にかまけての遊びではなく、子どもたちのいのちを呼び覚まし、村人たちを目覚めさせ生命を蘇らせたと思われる。同様のことが21世紀の今、秀画伯により実践されていると思う。

私達は今の生活を生きるのにあくせくとしている。しかしそんな中で自分や家族を犠牲にして生徒や学生の為に尽くしている人がいる。この人たちも良寛さまと同じであろう。子どもの為に自分の全てを尽くす母親。世の為、人の為に名誉や地位や金は二の次にして打ち込む人は、砂漠化しつつある現代社会の心の世界に大きな潤いを与えるであろう。菩薩道を学んだ多くの作陽の卒業生が、大小さまざまな菩薩となり、自分の生活や仕事の中で、周囲に潤いを与えることを心がけ、実践されていることと思う。潤いを与えられた人々は喜ぶ。それを見て、潤いを与えた人は心の底から充実した人生を想い、有難いことであると思われるであろう。

大学改革における学習から学修への転換

学長
有本（ありもと） 章（あきら）

人間が学習する動物であることは、誕生以来あるいは誕生以前の母親の胎内から学習を開始して、一生涯持続する事実にうかがわれます。新生児が学習を伴って誕生してくるとき、それを善い方向へ導くために教えて育てる、親や社会の側からの教育の営みは不可欠となります。人間の子どもは牛馬の子どものように誕生から程なく本能的に立ち上がって歩けない以上、周囲から手取り足取りして導く営みが欠かせません。アドルフ・ポルトマンが指摘したように、人間は「生理的早産」によってほぼ１年早く生まれますから、親や社会からの親身な世話や教育が欠如すれば、人間の子どもは万物の霊長とはいえたちまち生存できなくなってしまいます。生後の幼少期に限らず人間が生まれて一人前になり生涯を辿る「社会化」の中に占める教育の比重は著しく大きいことが分かります。

このように人間の生涯においては教育と学習が不可分に結合していますから、両者が適切に作用しあうことが個人にとっても社会にとっても期待されることは論を待ちません。教育も学習も意図性と無意図性をもつとすれば、それぞれの組み合わせによってさまざまな教育と学習の関係が生じることが分かります。教育と学習の関係が両方ともに意図的な場合は、両者の関係は概して順機能的であり、しかも組織的であるという結果を生じるでしょうし、その典型は教員も児童・生徒も意図的に教育し学習しあうものと目される学校であるはずです。逆に両者が意図性を欠如して教育も学習も機能しなければ、学校とは名ばかりの存在に転じますし、そこまで行かなくとも、教員と児童・生徒のいずれかが意図性を欠如して教育か学習が機能しなければ、教育と学習の関係は不十分な状態に陥らざるを得ませんから、学校は逆機能に見舞われるでしょう。

かくして教育と学習の関係は種々具現しますが、意図的な教育と学習をめざす大学の授業においては「教授－学習過程」が成立しております。そこでは教える側の教師と学ぶ側の学生が意図的に教えかつ学ぶという意図性をそなえていることを前提としますし、それでこそ授業は活気に溢れ、すぐれた成果を発揮します。意図性が教師か学生のいずれかに欠如するばあいには、大学の授業としての十分条件は失われざるを得ません。

今回の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（2012年８月）は、「学習」をあえて「学修」に変えて、learningからstudyへと転換したことが注目に値するでしょう。これは大学設置基準に従うものであり、従来の慣行では学習は授業を担保しない点で意図性が乏しいのを改め、授業を媒介に予習や復習を担保して意図性をもった学修を求めるところに狙いがあると解されます。もとより単位制を基盤とする授業は、予習・授業・復習をワンセットとした１日８時間の学修を15週持続して１単位が取得できる仕組みであります。標準的には予習１/3、授業１/3、復習1/3の割合での学修を想定します。それにもかかわらず、このメカニズムをそなえた単位制は戦後の大学改革ではほとんど成功してきませんでした。その意味では、今回の答申は形骸化している単位制を見直す動きであると言えるでしょう。

授業以外に予習・復習をしなければ、卒業単位の124単位を超えて多くの単位を取れる利点がある反面、１単位の取得に十分な学修時間を割きませんから、学力が身につかないという結果が生じても不思議ではありません。上記の答申では、１日に米国の学生が8.2時間、日本の学生が4.6時間ほど学修をしているとの調査結果の報告がありますように、日本の学生は授業を多く受講して単位を多く取得していても、設置基準の半分程度しか学修せず、自律的に予習と復習をしていない現実が浮上します。これでは単位数は多くても学力がつかず、卒業後に必要な基礎学力、汎用的能力、問題解決力、創造力などは在学中の授業を通して十分に涵養されませんし、卒業後に必要な就業力の形成もおぼつかないと危惧されます。学生に学習ではなく学修を期待し「能動的学修」を喚起するには、それを可能にすべく教師は教授法を工夫し、予習や復習を組み込んだ質の高い授業を行うことが不可欠であります。換言するならば、大学が大学として存在するために、教員と学生の両方が教育と学習の本来の意図性を取り戻すことが課題となっているとみなされます。

こうして、単位制の仕組みの中に学習から学修への転換を置いて考えますと、教師と学生の両者は授業を媒介に教育と学修の質を高めるために、予習・復習の徹底はもとより、シラバス、GPA（グレイド・ポイント・アベレージ）、CAP制（単位取得の上限設定）、厳格な成績評価、授業科目のナンバリング、ポートフォリオなどの改革に取組む必要があります。いかなる大学といえども、かかる改革を抜きにしては今後生き残れないでしょう。

「演奏芸術センター」の役割

演奏芸術センター長
山下耕司（やましたこうじ）

演奏芸術センター、その産声を聞いてからはや７年目になろうかと思います。この４月よりセンター長を拝命し、非力ながらも大学の主だった演奏会の企画運営をこなしている毎日です。どの分野でも同じこととは思いますが、業務をこなしていくうえで、最も大切なことは目的の確認です。常に、何のためなのかを思い、目標を定め、計画実行していかなければなりません。センターの目的、存在意義は、と考えますと、おのずとその答えは「学部グランドミッションの実現」に辿り着かざるを得ません。すなわち、「いきいきと音楽にいき、音楽をいかせる人を育成し、社会に貢献します」「音楽を通じて人生を奏でる夢に向かって努力する人を、強い信念と卓越した技術で支えます」「世界に誇れる音楽の拠点を倉敷に創造します」の３点です。特にセンターが中心となって担うべきミッションとしては、３つ目の命題があげられることは言うまでもありません。最も身近な玉島地区、倉敷と岡山を中心とした県南、そして作陽の故郷でもある津山を拠点とした県北と、センターを最低限岡山県下の音楽におけるハブ的な存在に展開していかなくてはなりません。ハブとは単に中心に居座るのではなく、双方に意義のある交流が継続的に行われ、ともに必要とし、される関係にあることと思います。昨年、総社市との提携が進められ、今年の７月に記念コンサートが開催されましたが、地元市民の方々、そして行政からも高く評価いただけたことは何よりの朗報です。また、国際的な交流として、モスクワ音楽院、ヴェルディ音楽院、コロラド州立大学、カーセージ大学、大連、瀋陽などの中国の大学などとの友好協定があり、今後の展開が待たれる状況にあるように思います。母体である同窓会との協力により中国、四国、九州方面への展開、小・中・高との連系を通じての音楽の普及活動、各種音楽組織との連携、等々、実に多くの活動の可能性がありますが、常に「世界に誇れる音楽の拠点を倉敷に創造します」というミッションを念頭に入れておかなければならないと思います。

さて、来年の３月には本年度の一大プロジェクトである「ヴェルディ生誕200年記念公演」が、地元倉敷市芸文館で行われます。指揮者には皆様おなじみのアジマン先生、ソロにはラウラ・ブリオーリ、蓮井、羽山、藤田の諸先生、その他、研究員、在学生、倉敷市合唱連盟を中心とした合唱団、そしてオーケストラには勿論くらしき作陽大学管弦楽団が出演します。皆様お忙しいこととは存じますが、どうか演奏会においでいただき、音楽の素晴らしさ、オケの、声楽の、合唱の迫力を十二分にご堪能していただけたらと、一同心よりお待ちしております。

今後ともセンターの活動にご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いします。

ヴェルディ生誕200年記念／オペラガラ・コンサート

第45回くらしき作陽大学管弦楽団定期演奏会

日　時：2013年3月1日㈮　18:30 開場　19:00 開演
会　場：倉敷市芸文館
出　演：くらしき作陽大学管弦楽団／指揮：ダニエーレ・アジマン
合唱：倉敷市合唱連盟・くらしき作陽大学有志学生
Sop.羽山弘子、Mez.ラウラ・ブリオーリ、Ten.藤田卓也、Bar.蓮井求道、Bas.秋山啓、森田学
入場料：一般 2,500円／学生 1,000円（当日は500円増）

指揮：ダニエーレ･アジマン

Sop.：羽山弘子

Mez.：ラウラ･ブリオーリ

Ten.：藤田卓也

Bar.：蓮井求道

（お問い合わせ）くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学 演奏芸術センター
TEL：086-523-0822　E-Mail：sakuyo.kikaku@ksu.ac.jp

産学連携にむけた最近の諸活動

商品開発交流研究センター長
原田節也（はらだせつや）

経済産業省、農林水産省では、地域の零細な農商工業者を支援し、地域産業の活性化を図ることを目的に、それぞれ農商工連携や６次産業化推進に向けた施策を進めつつあります。いずれの事業もその核になるのは新たな食品開発と販路開拓であり、地域に立地する大学の知と技術の発信に熱いまなざしが注がれています。そこで、商品開発交流研究センターは昨年度から地域貢献の一環として、地元食材を使った新商品開発を重点的に取り組んできました。その主な成果は以下のとおりです。

（１）地域の未低利用資源を活用した新商品開発

釘宮元教授を中心に、玉島の豆腐店から出る「おから」をペースト化する技術を開発し、餡や氷菓生地などの新食品を試作してきました。おからペーストがもつ高栄養性や高食物繊維含有性に着目して、本年９月には、岡山県北の洋菓子店や倉敷の食品メーカーなどが注目し、その活用についての技術相談に来学するなど、産学連携の展望が開けつつあります。さらに、地元玉島で耕作放棄地管理のために植栽されているジャイアントかぼちゃは重量コンクールなどへの出品後は廃棄されてきましたが、西洋カボチャがもつ高カロテンに着目し、ジャイアントかぼちゃを使ったコンフィチュールを試作（釘宮）し、玉島のパン工房「あるてふぁっと」で試験的に売られるようになるなど、徐々に成果が現われています。

（２）健康機能性をめざした新商品の開発

広島県福山市にある農水省の独立行政法人「近畿中国四国農業研究センター」と研究協定を昨年締結し、同センターが新しく育成した高食物繊維（βグルカン）とモチ性をもつ裸麦品種「キラリモチ」や黒毛和種の放牧牛肉「熟ビーフ」を使った「あんブレッドきらり」（塩見ゼミ）と「さくようバーガー」（河村ゼミ）を試作してきました。とくに、「あんブレッドきらり」は、餡も食物繊維の多いおからペーストと連島産ごぼうを主体に、キラリモチのパン生地でくるんだ食物繊維の多いアンパンとして各種のイベント会場で直接テスト販売し、好評を得ているところです。

また、「さくようバーガー」は商品開発実習の授業で学生達が取り組んだ開発商品で、購買者のニーズに合わせたソース選択や脂身の少ないハンバーグで低カロリーバーガーを売り物にして試作され、前述の研究センターの一般公開で試食会を開いたところ、長い行列ができるほどの好評を得ました。その他、摘果の未樹桃を使ったピクルスの技術相談など、徐々にですが、商品開発交流研究センターの地域認知が進みつつあることは喜ばしいかぎりです。

商品開発交流研究センターの活動および試作品紹介（一部）

①さくようバーガー　②あんブレッドきらり　③ベジタブルコンフィチュール　④⑤地元イベントでの出店販売

大学院音楽研究科からの御礼と近況報告

大学院
音楽研究科長
竹内京子（たけうちきょうこ）

平素より、大学院音楽研究科に対しまして、温かいご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

今年もほんとうに長く、暑さの厳しい夏でしたが、その盛夏の真只中の８月２日に、大学院サマーコンサートが本学３号館聖徳殿において、開催されました。

平日のお昼間にもかかわりませず、多数のお客様にご来場いただくことができました。この場をお借りし、厚く御礼を申し上げます。

１年生、２年生有志のそれぞれが、15分から45分におよぶ見事な演奏を披露し、外の猛暑を忘れさせてくれた４時間のコンサートでございました。１年生３名は、入学後５ヶ月目にして、すでに、各人の進むべき世界を確実にイメージしたお客様の心と通い合うパフォーマンスを提供でき、感心いたしました。また、２年生３名の進歩は著しく、音楽と真剣に向き合うことを継続する素晴らしさを感じることができました。

また、賛助出演として、渡邉康雄教授をはじめ、学部生、卒業生の有志の方々が、素晴らしいピアノ伴奏で支えてくださいましたことを申し添えますとともに、ご尽力に感謝の意を表します。

さて、作陽学園報Vol.62でもお伝えいたしましたが、平成25年度より、本大学院音楽研究科は、演奏芸術領域、教育文化領域、音楽文化領域の三領域制に改編されます。本学音楽学部学生はもとより、他大学からの進学希望者からのお問い合わせも頂いており、さらなる発展が期待されておるところでございます。

今後とも、大学院音楽研究科へのご支援を賜りますよう、心からお願いを申し上げます。

現在、入学試験第Ⅰ期を無事に終え、第Ⅱ期（来年２月１～３日）実施に向けて、鋭意準備を行っておりますので、ご興味がおありの方がいらっしゃいましたら、入試広報室までご遠慮なくご相談ください。

なお、2013年２月14日からの二日間、１年生によるハーフリサイタル、２月19日からの三日間、２年生による修了演奏会を藤花楽堂において、計画してございます。充実した演奏会を楽しんでいただけるよう、努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「作陽音楽短期大学 演奏会のお知らせ」

作陽音楽短期大学
音楽学科長
丹代茂（たんだいしげる）

朝夕めっきり冷え込んで初雪の便りがあちらこちらから聞こえてくるようになり、もうすぐお正月と何かにつけて忙しい時期になってまいりました。

皆様方にはいつも一方ならぬお力添えにあずかり、また、日頃より本学の教育研究及び演奏活動にご理解、ご協力賜りまして誠にありがとうございます。

本学は昨年創立60周年を迎え、今年度からまた新たな出発と考え教職員一同、今までより一層努力しているところでございます。

今年も短期大学主催の演奏会が３回あり、11月27日にすでに開催されましたソロやアンサンブルの「デザミ・ド・ミュジク」を皮切りに１月、２月に毎年好評を博している２つの演奏会が催されます。

出演する学生たちは、すでに本番に向け必至に練習に励んでいるところでございますが、ぜひ多くの皆様においでいただき、日頃の練習の成果をご覧いただきまして、励ましの声をかけていただければ幸いです。

2013年1月27日（日） 作陽ミュージカル（SAKUYO MUSICAL）2013
（開演）14:00
■ソング、バレエ、タップ、ダンスの４部構成
■会場：藤花楽堂　■入場料：一般1,000円・学生500円

2013年2月17日（日） 作陽音楽短期大学吹奏楽部演奏会
（開演）14:00
■曲名：ハンガリー狂詩曲　第２番　他
■会場：藤花学堂　■入場料：無料

作陽ミュージカル 2013

作陽音楽短期大学吹奏楽演奏会

ワンランク上の充実感と満足度
社会を正しく生き抜くことができる真の人間力の育成

岡山県作陽高等学校

★全国に通用する教育内容と個性の可能性を最大限に引き出す責任指導“智慧の教育”実践校★

校長 更なる一歩を！

校長 松野 英雄

今年度も後半となり、各学年団をはじめ生徒たちも総仕上げの段階を迎えました。この間、球技大会や清陵祭など数多くの行事を実施してきました。生徒たちはその都度若さあふれるエネルギーを発揮して、私たち教職員に感動や喜びを与えてくれました。その中でも、特に私の印象に残った事柄について報告します。

まず初めは、８月17日㈮～21日㈫までの４泊５日の日程で行った夏季学力強化合宿についてです。これは、１年生から３年生までのスーパー特進・特別進学両コースの希望者を対象とした勉強合宿であり、66名の参加者を得て、世俗から隔離された牛窓沖の前島で実施しました。“夏を制する者は受験を制す”を合い言葉に、６時～22時50分までの間、朝の体操・食事・入浴以外は全て勉強に費やす合宿で、①丸一日勉強する環境に身を置き学習活動に専念することで集中力を養う。②苦労をした者だけが得ることのできる「達成感」を味わい、今後の学習活動における「自信」に変える。ことを目的に行いました。私も初日に参加し、開校式の挨拶の後、授業参観をしましたが、生徒たちの勉学に真剣に取り組む姿勢に圧倒されました。この合宿で学んだ集中力と自信を糧にして、進路の自己実現を果たしてくれることを期待しています。

二つ目は、９月13日㈭に実施した清陵祭・体育の部についてです。当日は、８時50分の開会でしたが、木曜日にもかかわらず保護者席は満席で、PTA役員による売店もすでに準備万端でした。総合音楽コース・吹奏楽部の先導による生徒の入場行進で始まった体育の部ですが、団紹介や騎馬戦など一部の種目を除くとリレーなどの競争種目が多く、生徒たちは一生懸命に走っていました。最近の体育祭はどの高校とも余興的な種目が多い中で、生徒たちが全力を振り絞り頑張っている本校の体育祭を見て、力強さと爽やかさを感じました。

最後は、「スポーツと音楽」についてです。柔道部の県内・中国地区での圧倒的な勝利とインターハイでのベスト８、ゴルフ部の全国選手権・女子団体５位など全国レベルの活躍、また男子サッカー部の県大会８連覇・通算21回目の全国選手権出場、女子サッカー部の５年連続５回目の全日本選手権出場など、今年も素晴らしい活躍をしています。また吹奏楽部も全日本吹奏楽コンクール県予選会で通算９回目の金賞を受賞、山陽学生音楽コンクール・管楽器部門（金管）で３年生・樋口雅明くんが１位になるなど音楽教育の伝統も健在です。

こうした素晴らしい伝統と実績を誇る本校が更なる発展をするためにも、作陽学園の皆様方のより一層のご理解とご支援をいただきながら、更なる一歩を踏み出したいと考えています。

校訓

H23・H24年度 卒業記念品

新しい机と椅子

体育館 二重窓

食堂前の屋根

聖徳寮別館

活躍 ２０１２年主な作陽生の活躍

みなさまの応援ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

柔道部 中国大会団体優勝
全国大会団体５位・個人３位

ゴルフ部
全国大会男女団体・個人出場

吹奏楽部 岡山県大会９回金賞受賞
山陽学生音楽コンクール
高校生の部管楽器（金管）第１位

３年連続 進路保障 100%達成
４年連続を目指して頑張ります！

おかげさまで今年もサッカー部男女アベック全国大会へ出場が決定しました。全国制覇にむけてがんばります。

第91回全国高校サッカー選手権大会
会場：国立競技場 他

<開 会 式>	12月30日（日）
<１ 回 戦>	12月31日（月）
<２ 回 戦>	1月 2日（水）
<３ 回 戦>	1月 3日（木）
<準々決勝>	1月 5日（土）
<準 決 勝>	1月12日（土）
<決 勝>	1月14日（月・祝）

第21回全日本高校女子サッカー選手権大会
会場：ゆめりあS・G 他

<開 会 式>	1月11日（金）
<１ 回 戦>	1月12日（土）
<２ 回 戦>	1月13日（日）
<準々決勝>	1月14日（月・祝）
<準 決 勝>	1月16日（水）
<決 勝>	1月17日（木）

教務　作陽高校教師として

主幹教諭・教務部長　神田　寿則

授業風景

報恩の日

私の好きな言葉に『今やらねばいつできる。わしがやらねばだれがやる』と平櫛田中翁の残した言葉があります。私たち教師も、自ら率先垂範を心がけて毎日を過ごしています。誰かがやるだろうという他人任せではなく、今を大切に行動していくことが重要です。そうする事により、生徒も教師の背中を見、自らも考え伸びてくれる事と信じています。私学を取り巻く環境は厳しいものがありますが、それぞれが汗をかき、行動することが今求められています。

また、平櫛田中翁は日本を代表する岡山県井原市出身の木彫家でしたが、百歳を超えても情熱と気力は衰えず『六十、七十ははなたれ小僧、男盛りは百から百から、わしもこれからこれから』と言い、百七歳の生涯を全うされました。若いころから苦労をされ、90歳で文化勲章を受章された田中翁には到底及ばなくとも、人生で何かを残したいものです。幸いに私たち教師には多くの生徒と出会う機会があります。自分にはできなくとも、この生徒という原石が少しでも輝くきっかけを作ることができたなら、これは教師として本望ではないでしょうか。生徒はそれぞれに異なった輝くものを持っており、それがどこで、どのように輝くか誰にも分かりません。今後とも生徒とともに向上心をもって歩んで生きたいと思います。そのためには、田中翁が道具である彫刻刀の刃味に徹底的にこだわったように、我々教師も人間性、指導力、教養などを十分磨くとともに、生徒に対し誠心誠意で向かうこと、しっかり責任を果たしていくことが必要です。そのような教師集団を目指し、今後とも作陽高校のために精進していきたいと思います。

生活　生徒の状況

生活指導部長　村上　大介

朝のあいさつ運動

朝の清掃活動

朝のトイレ掃除

朝の登校指導で校門で生徒たちと挨拶を交わす毎日。先日、校門で一礼して学校に入る女子生徒に会い思わず「おはよう！」と声をかけました。ふと省みると生活指導部長になって９年目になりますが、久しぶりに清々しい気持ちにさせられる出来事でした。

作陽での青春を精一杯謳歌できる生徒に育てたいと次のような生徒指導を行っています。

一つ目は、挨拶　・挨拶については挨拶運動や平素からの教職員の声かけの成果もあり、全体として気持ちのいい挨拶が出来るようになっています。

二つ目は、掃除　・掃除は自分たちの住む場所、自分たちの学校を自発的にきれいにすることです。合い言葉は「掃除は心をみがくこと」。毎日放課後の掃除以外に報恩感謝の日の講話の後、校舎内外の掃除、ゴミ拾いも行っています。

三つ目は、合掌　・合掌については、朝礼、職員会議、全校集会、授業、ＨＲ等一つの集団が、時と場所を同じくする時、その始まりと終わりに全員で心静かに手を合わせています。その合掌は礼儀としての合掌ではなく、出会いを喜び、今ここにいることを喜べるための合掌であり、色々な人に対する「ありがとう」という感謝の言葉の代わりになるものです。

生徒は全体的に落ち着いた状態で学校生活を送っています。挨拶・掃除・合掌については、引き続き指導を要しますが、今年度も生活指導の中心として「感謝」の心、「足るを知る」心が育つように指導していきたいと思います。

合掌

進路　2012年度　進路状況

進路指導部長　高峰　和三

基礎学力強化「語彙・読解力検定」

夏の学力強化合宿in牛窓

全校を挙げて取り組んでいる「作陽高校『基礎学力向上プロジェクト』」も２年目を迎えました。この取り組みの一つでありますベネッセと朝日新聞社共催の「語彙・読解力検定」では、本年度、３年生180名が受検し準２級合格者が33名と輝かしい成果を収めています。どの高校よりも先駆けて導入したこの検定は、今まさに大学進学、就職の場で注目を浴びているものであり、毎週地道な努力を継続させてきた本校の生徒は、各所より高い評価を頂けると確信しています。まさに検定の名称通り、語彙力・読解力はもちろんのこと、表現力・面接力に至るまで、検定の対策を行うなかでこれらの能力を養い、自信を持った生徒が多く育ってくれると思います。進学においては入学試験が多様化し、入学試験の成績重視の傾向から、その生徒の人間性や３年間で培ってきた基礎学力の重視へと転換してきております。この点からも、単なる受験対策だけを視野に入れた知識の詰込み教育はまもなく限界が訪れ、それにかわるように入学当初から地道に基礎学力を養い、豊かな人間性を育んだ生徒こそ、自らの夢を実現できる時代へと変わってまいります。この点を踏まえ、私たちは一丸となり、生徒が自らの手で自分の進路を見出すための機会を多く設け、また目標を達成するための十分な環境を整える取り組みを積極的に行っています。英語検定や漢字検定など各種検定の対策指導、放課後補講や自習室の開設はもとより、校内での進路ガイダンスの実施、また校外の大学への訪問など、年々進路指導の充実を実感できます。

生徒一人ひとりの顔や性格が異なるように、指導も個々に応じたものが必要となります。「個々に応じた、寄り添う指導の実現」そして「生徒の人間性の向上」こそ、目指すべき進路指導であります。「進路指導は生活指導の延長線にある」。このフレーズを全教員の共有テーマとし、日々の学校生活における人間教育の上に、より充実した進路指導を今後も生徒とともに実現させていきたいと思います。

生徒会 「独創自主の精神で取り組む生徒会活動」 生徒会顧問 山本 哲裕

清陵祭（体育の部）

清陵祭（文化の部）

今年度も作陽高校最大のイベントである清陵祭が９月９日・13日に行われました。28回目となる今年度の清陵祭テーマは「祭りといえばオレらだろ！ 巻き起こせ ＳＡＫＵＹＯ 疾風伝!!」で、このテーマ通りに生徒・教員・保護者が一体となり大きな風を起こし、清陵祭は大成功をおさめることができました。またこの熱い風は作陽のみに留まらず、多くの人の力を借りて、ごんご祭り・商店街パレードなどを通して津山の街も巻き込み盛り上げていくことができました。当日は保護者の皆様をはじめとして大変多くの方々に足をお運びいただくとともに、多大なるご協力を賜り、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

本年度の清陵祭では生徒の意見を取り入れ、文化の部の前日から前夜祭イベントとしてカラオケ大会を企画して開催するという新たな取り組みも行いました。この企画を通してクラスや各ブロック、部の仲間達とより一層団結することができていました。また、清陵祭当日に向けて大きく弾みをつけることにもつながり、大成功の企画となりました。

この清陵祭は生徒にとって高校生活での大きな思い出の１つであり、また自分たちで多くの事を考え、行動することで成長に繋げていくことができる場でもあります。そのためには保護者、地域の方々のお力添えが必要になる事も多くあると思います。去年より今年、今年より来年と一層盛り上げ、よりよいものにしていけるように努めてまいりますので、これからもよろしくお願いします。

ごんごまつり踊り連参加

渉外部 「やっぱり作陽でよかった!」から「やっぱり作陽に決めた!」へ 渉外部長 藤井 崇広

＜岡山県北・津山・全国から信頼される作陽の教育力をみなさんに知ってもらいたい＞

平成24年４月、新１年生240名、全校生徒621名で新年度のスタートを切りました。入学者は、昨年度に比べて約60名増加し、新しいデザインの制服を着た新１年生の人数の多さに圧倒させられながらも、次年度に向けて、より一層生徒募集に力を入れていかなければと感じています。作陽教育に対してのご理解とご協力をいただいているすべての方々のおかげだと感謝しております。

さて、岡山県北の中学校３年生の人数の減少は顕著であり、昨年度に比べて約200名減少するというデータがあります。少子化の流れは止められないのが現状ですが、私達は恐れてはいません。本校全教職員は、社会を正しく生き抜くことができる真の人間力の育成を目指す智慧の教育を日々実践し、一人ひとりを大切にし、自利利他の精神で、きめ細やかな慈愛に満ちた指導を、不断の努力で取り組んでいるからです。作陽生は、笑顔で夢に向かって高校生活を送ってくれています。その笑顔とがんばりに答えなければならないと、私達の指導にも熱が入ります。この相乗効果が、作陽生の“やっぱり作陽でよかった”という言葉を生むのです。その言葉が口コミ効果となり、“やっぱり作陽に決めた！”と受験生・新入生が増加すると信じているからです。

常に販売戦略を打ち出し、市場シェア７割を獲得し、経常利益を上げ続ける㈱日本マクドナルドCEOの原田泳幸氏は、“情熱を持って、常にお客様を感激させる企画を打ち、スタッフ全員で実行し続けることが大切である。消費者が物を買うとき、売り手の言うことは47%、メディアの言うことは53%、他の消費者の言うことは90%を信じるからである。”と語っています。渉外部は、さまざまな機会や媒体を通じて、作陽の教育力と作陽生の成果を知ってもらうための情報発信に工夫を凝らし、一人でも多くの作陽ファンを増やし、多くの受験生・新入生の獲得に邁進しています。加えて、作陽生が日々実感する“ワンランク上の充実感と満足度”が、受験生である中学生のみなさんに口コミとして伝わる90%の力を意識した募集を展開しています。作陽生のために何をしてあげることができるかを考え、常に感動を与える企画を考え、実行していくことで、少子化というリスクをチャンスに変え、新入生獲得にチャレンジしていきたいと考えています。昨年同様、作陽Familyの皆様からのあたたかいご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

日々挑戦し進化し続ける作陽高校にご期待ください。

オープンスクールの様子

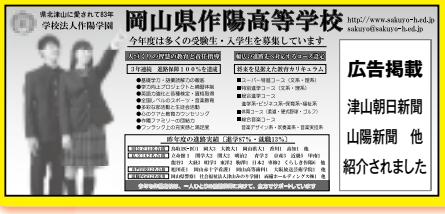
オープンスクール授業体験

オープンスクール食堂体験

県模試

中学校対象入試説明会

入試の様子



作陽Family [学園関係者・同窓生・保護者・在校生のみなさまへ]

受験は作陽、入学は作陽。作陽高校にお任せください。

作陽高校渉外部入試係 TEL0868-23-2188 FAX0868-24-7802
sakuyo@sakuyo-h.ed.jp http://sakuyo-h.ed.jp

鶴声会だより

平成24年度 鶴声会総会開催

鶴声会会長　井端　豊実

平成24年９月22日㈯、平成24年度の鶴声会総会をくらしき作陽大学で開催しました。今回は昭和48年３月卒業生の同期会もこの日に併せて開催されるということで多くの卒業生にお越しいただくことができました。総会では平成22・23年度の事業報告、収支決算報告等の議題を審議し、承認されました。総会の後は、卒業生によるピアノ２台と打楽器による演奏会組曲「カルメン」の演奏（音楽学部）、山下静江食文化学部長先生による「老けない、ぼけない～40歳からの不調を解消～」の講演（食文化学部）、子ども教育学部付属児童文化部「ぱれっと」による手遊び歌の体験と音楽人形劇「ぐりとぐら」の上演（子ども教育学部）と、各学部の特色を活かしたイベントを実施しました。懇親会では松田英毅理事長先生にもご参加いただき、くらしき作陽大学の近況報告がなされ、同窓会会員の懇親が行われました。津山時代の卒業生からは津山キャンパスの思い出などが語られ、平成24年３月に卒業した卒業生からは、鶴声会に参加することの喜びの声が聞かれました。また今回初めて倉敷キャンパスにお越しいただいた方々からは非常に素晴らしいキャンパスですねとのお声をいただくなど、昭和45年３月卒業の１期生から平成24年３月卒業の43期生まで幅広い年代の方々に交流していただくことが出来たことに喜びを感じながら、無事に終了することができました。

さて、今年度は大学行事（事業）と連携により支部活動の活性化にも力を注いでいます。大学・短大、鶴声会、各県支部の共同事業としてくらしき作陽大学・作陽音楽短期大学説明会を米子、山口、愛媛、高知、福岡、鹿児島で開催しました。多くの卒業生にお越しいただき、現在の作陽の様子、新たな学部学科編成などの情報を得る説明会になりました。来年度大学と連携して開催する際には、卒業生の皆様にお声をかけさせていただきますので、ご参加いただけますようお願いいたします。

また、鶴声会各県支部においても、様々な活動を展開しています。

平成24年５月には関西支部総会が行われました。開催に併せて関西を中心に活躍されている卒業生の演奏会を実施しており、毎年、好評を得ています。

平成24年６月には鳥取支部総会も開催されました。モスクワ音楽院特別演奏コースのグリャズノフ先生による演奏も披露され、参加された方々からは高い演奏力を目の当たりにし、感動をいただきました。

今後も同窓会鶴声会へのご支援、ご協力をいただけますようよろしくお願いいたします。

翠会だより

翠会近況報告

翠会会長　石原　昌子

翠会会員の皆様こんにちは。いかがお過ごしでしょうか？「同期会を開きました」とのお便りが同窓会事務局に届きましたのでご紹介します。

去る、10月13日㈯に昭和43年卒業の保育科同期会を島根県在住者が担当し、松江市の玉造温泉で開催しました。翌日は松江城を囲む堀川を舟で巡り、城山周辺の散策をしました。

参加者は19名で翠会（同窓会）本部より石原昌子会長、恩師多久和（旧姓古藤）真子先生にご出席いただき、石原会長からは、大学の近況と翠会の様子を伺いました。

今回は、今年３月に逝去された友を偲び、生前の姿を語り合い追悼しました。

短大を卒業していつの間にか40数年、高齢期に足を踏み入れようとしている私たちは、それぞれがいろいろな人生を歩んできて、ふと振り返った時、同期の仲間の事が想われる年代となったようです。返信通信の欠席理由に、「出席したいけど・・」自分の体調、家族の介護などの状況が加わりはじめたことにも伺えます。

また一方で、同期会を開く度に初参加の方もあり、何十年振りかの再会に「誰だっけ？」から始まるけれど、すぐに青春の１ページがよみがえり話は尽きません。

「来年こそは、参加したい！」という方のためにも新たな親交を深めるためにも、場所を移し幹事を交代しながら息の長い同期会にしようと誓い合い「来年は、翠会総会で！」「再来年は神戸市で！」と再会を約束して閉会しました。

私たち卒業生は、翠会の存在があるからこそ繋がる絆であると有難く感謝し、喜び合いました。

（保育科昭和43年卒業　石原和美）

翠会でも大学同窓会（鶴声会）と組織は違いますが、同じ作陽の同窓会として今後もさらに支援･協力して行きたいと考えております。何より卒業生同士の繋がりが着実に広がっていることを大変嬉しく感じており、来年度開催の総会へ向けての準備も行っているところです。

最後になりましたが、卒業生の皆様には今後とも短期大学同窓会（翠会）への変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

平成25年度 翠会総会並びに懇親会

平成25年11月9日㈯ 11:00より メルパルク岡山

総会に合わせて同期会を開いてみませんか？

作陽高校同窓会だより

母校応援は元気の源泉

高校同窓会副会長 山下　亨

平成24年度の作陽高校同窓会総会・懇親会は、８月11日㈯に津山国際ホテルで開催されご来賓を含め60名の参加による賑やかな交流会になりました（写真）。作陽高校同窓生は総勢約２万４千人。岡山県内のほか関西や関東地域など全国各地で活躍しており、支部は、関西支部（約3,600名）、関東支部（約400名）、真庭・新見支部（約1,100名）が活動しています。

かつて、関西地域には毎年母校から先生（恩師）がやってきて関西に就職した大勢の同窓生たちと会食をし教え子たちの健在・活躍の様子を伺い懇親を深めてきました。関東支部にも故松田藤子先生が支部同窓会に毎回出席され同窓生はこの日ばかりは「藤子先生にお会いしたい」と文字通り万障繰り合わせて参加し在校時代にお聞きできなかったお話を伺ったり高校の将来像を伺ったりして恩師を囲んで楽しい一日を過ごしたのです。

インターネット時代は出会いの時代。もう一つの財産である「校訓と校歌」を共有する同窓生たちに楽しい交流の輪を広げる必要があります。高校同窓会本部としては交流機会が増えるように開催日を調整し多忙な担当幹事への支援助力を強化するなどいろいろと工夫しております。一方、「支部の活性化が同窓会の活性化につながる」という考えから本部の支部支援が始まっています。真庭・新見支部では支部長が交代し来年９月に支部総会が予定されているほか、岡山市、津山市、美作市などでは支部設立の準備が進んでいます。

同窓生は日頃毎日母校のことを気にかけています。同窓生の中には母校の清陵祭へのツアー参加を望む声が増えつつあります。関東支部はサッカー部や柔道部の全国大会出場の都度支部一丸となって応援体制を組んでいます。関西支部も硬式野球部の甲子園出場を毎年心待ちにしています。

ともあれ、野村監督率いるサッカー部が県大会で優勝し８年連続21回目の全国大会出場を決めました。母なる作陽高校を応援することは自分を元気にする源泉です。全国初制覇の夢に向かって全国の同窓生の精一杯の応援をよろしくお願い申し上げます。

合掌

在学生の活躍

くらしき作陽大学 子ども教育学部
附属児童文化部

『ぱれっと』

「授業以外にも、もっと子どもたちと触れ合いたい！」という思いをもつ学生たちが立ち上げた部活動『ぱれっと』を紹介します。

子ども教育学部付属児童文化部ぱれっとは、先生を目指す学生が学び、育ち合う場です。人形劇などを製作・稽古し、保育園・幼稚園・小学校・児童館などの子どもたちと保護者の方々にお届けします。2008年８月から2012年11月まで、小さな歩みを積み重ね、140回の公演を行いました。

その中で部員たちは、知識や技術や経験だけでなく、主体的に考え、協働し、次につなげる力を学んでいます。

「ぱれっと」部長
子ども教育学科３年
中野広大

作品の稽古をする過程で、私たちは様々な問題にぶつかります。「よりよい作品」を目指して稽古していくということは、「自分の弱いところ」「変わらなければならないところ」にも目を向けなければなりません。それは、とても難しくて苦しいことです。しかし、将来「先生」を目指す私たちにとって、必ず向き合わなければならいことでもあります。

子どもたちには、私たちが真剣に一生懸命向き合って、稽古をした作品を見てもらいたいと思っています。作品の内容だけでなく、私たちの思いも子どもたちの心に届くように、そして大人にも届くように頑張っています。

私たちはもっともっと1人の「人」として「おおきく」なりたいと思います。

10月６日(土)～８日(祝月)の３日間で開催した“第16回 翔陽祭”のテーマは「Make a Treasure ～宝物を探しに～」。模擬店や多彩なステージイベントなどを通じて、学生や翔陽祭にお越しいただいた皆さまに、宝物のような瞬間を与えられた３日間となりました。

“第16回 翔陽祭”開催!

“作陽キッズキャンパス 2012”開催!

９月23日(日)に地域の子どもたちや保護者、ご家族の方々を対象としたイベント“作陽キッズキャンパス2012”が開催されました。当日は1,200名を超えるお客様に参加いただき、３学部の特色を活かした体験型プログラムを中心にお楽しみいただきました。

演奏会・公開講座等のご案内

Kurashiki Sakuyo University Faculty of Music
The Department of Music / The Department of Music Education

Sakuyo Junior College of Music
The Department of Music

12月 December 2012

5日(水) 〈開演〉18:45
作品の夕べ
■本学作曲教員による作品の演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

8日(土) 〈開演〉14:00
第25回日本伝統芸能・邦楽演奏会 さくよう歌舞座
■日本伝統芸能専修生による演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：500円

9日(日) 〈開演〉14:00
第40回作陽パーカッショングループコンサート
■大学・短大の打楽器専修生によるコンサート
今年度は40周年記念であり、OB・OG多数出演予定
■曲目：ショスタコーヴィチ／祝典序曲、ホルスト／惑星より「木星」
■会場：藤花楽堂 ■入場料：800円

12日(水) 〈開演〉18:45
モスクワ音楽院特別演奏コース学内公開演奏会Ⅵ
■音楽学部モスクワ音楽院特別演奏コースの学生による演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

12日(水) 〈開演〉18:45
コーラルコンサート
■合唱履修生による研究発表コンサート
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

13日(木) 〈開演〉18:45
副科吹奏楽 研究発表会
■音楽教育学科で副科として器楽を学んでいる学生の吹奏楽演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

15日(土) 〈開演〉14:00
第27回作陽サクソフォーン・オーケストラ演奏会
■様々な音域のサクソフォンを用いた、サクソフォンのみを使用したオーケストラ・アンサンブルの演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：500円

26日(水) 〈開演〉15:30
第25回作陽トランペットアンサンブル
■曲目：Cityscapes、Fantasy、演歌メドレー 他
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

1月 January 2013

12日(土) 〈開演〉14:00
金管室内楽研究発表会
■金管楽器のみを使用した小編成アンサンブルの演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

15日(火) 〈開演〉18:45
ウィンドフィルハーモニー研究発表会
■指揮：小林恵子
■曲目：イギリス民謡組曲、フェスティーヴォ、深層の祭、フェスティバルヴァリエーション 他
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

21日(月) 〈開演〉19:00
2012作陽シリーズコンサートⅡ
ユーリ・スレサレフ ピアノリサイタル
■本学モスクワ音楽院特別演奏コース ユーリ・スレサレフ先生による演奏会
■曲目：シューベルト／ピアノソナタ 遺作 イ長調、ショパン／前奏曲（全曲）
■会場：藤花楽堂 ■入場料：一般2,000円・学生1,000円

22日(火) 〈開演〉18:45
金管合奏研究発表会
■曲目：THE YEAR OF THE DRAGON 他
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

23日(水) 〈開演〉18:45
モスクワ音楽院特別演奏コース学内公開演奏会Ⅶ
■音楽学部モスクワ音楽院特別演奏コースの学生による演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

24日(木) 〈開演〉18:45
弦楽合奏研究発表会
■弦楽合奏履修生による演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

24日(木) 〈開演〉18:45
木管室内楽研究発表演奏会
■曲目：グノー／九重奏曲、テュイレ／六重奏曲、モーツァルト／八重奏曲 他
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

25日(金) 〈開演〉18:45
第7回音楽デザイン専修作品発表会「ミライへノトビラ」
■音楽デザイン専修生によるオリジナル音楽DVD作品発表会
■会場：藤花楽堂スタジオ ■入場料：無料

25日(金) 〈開演〉18:45
MILESTONE CONCERT
■室内楽履修生による、ピアノ・アンサンブル演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

27日(日) 〈開演〉14:00
作陽ミュージカル（SAKUYO MUSICAL)2013
■ソング、バレエ、タップ、ダンスの4部構成
■会場：藤花楽堂 ■入場料：一般1,000円・学生500円

2月 February 2013

9日(土) 〈開演〉18:45
第17回ホルンアンサンブル演奏会
■ホルン専攻生による演奏会
■曲目：小林健太郎／葛藤 他
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

10日(日) 〈開演〉14:00
オペラ演習後期発表会、重唱発表会
■オペラハイライト演奏会
■曲目：フィガロの結婚、アイーダ、リゴレット、ドン・パスクゥーレ、コシ・ファン・トゥッテよりアリア、重唱 他
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

10日(日) 〈開演〉14:00
Euphonium Ensemble Concert
■ユーフォニアム専攻生による演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

14日(木) 〈開演〉14:00
大学院ハーフリサイタル
■大学院一年次によるハーフリサイタル
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

15日(金) 〈開演〉14:00
大学院ハーフリサイタル
■大学院一年次によるハーフリサイタル
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

17日(日) 〈開演〉17:30
作陽混声合唱団定期演奏会
■混声合唱団による演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

17日(日) 〈開演〉15:00
第4回みんなで作るコンサートin倉敷～郷土の詩人の歌～
■薄田泣菫の詩による歌曲、合唱曲、良寛の和歌・漢詩による歌曲・合唱曲
■会場：玉島市民交流センター 湊ホール ■入場料：1,500円

19日(火) 〈開演〉未定
大学院 修了演奏会
■大学院生による修了演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

20日(水) 〈開演〉未定
大学院 修了演奏会
■大学院生による修了演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

21日(木) 〈開演〉未定
大学院 修了演奏会
■大学院生による修了演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

23日(土) 〈開演〉14:00
作陽バリテューバアンサンブルコンサート
■EupとTubaの専攻生による演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

24日(日) 〈開演〉14:00
第10回音楽のたね音楽会
■くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学音楽療法専修生が日頃学んでいることを活かして、お年寄りから子どもまで誰でも楽しませてくれる音楽会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

3月 March 2013

1日(金) 〈開演〉19:00
ヴェルディ生誕200年記念コンサート
■倉敷市芸文館 ■入場料：未定

3日(日) 〈開演〉17:00
ALL☆STAR Brass Band 第14回定期演奏会
■金管楽器と打楽器だけで構成している金管バンドの演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：500円

5日(火) 〈開演〉未定
第21回作陽トロンボーンアンサンブル 倉敷公演
■曲目：Let's Bone's March、バルカン風組曲 他
■会場：藤花楽堂 ■入場料：500円（当日300円増）

9日(土) 〈開演〉14:00
オーボエアンサンブル
■オーボエ専攻生による演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

10日(日) 〈開演〉未定
第21回作陽トロンボーンアンサンブル 北九州公演
■曲目：Let's Bone's March、続・国分寺 他
■会場：北九州芸術劇場 ■入場料：500円（当日300円増）

15日(金) 〈開演〉未定
平成24年度修了演奏会
■本年度音楽学部音楽専攻科、作陽音楽短期大学専攻科音楽専攻を修了する学生による演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

16日(土) 〈開演〉未定
平成24年度卒業演奏会
■本年度音楽学部、作陽音楽短期大学を卒業する成績優秀者による演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

都合により日程、出演者等、内容が変更になる場合がございます。
最新情報はお電話又は大学ホームページにてご確認下さい。

《お問い合わせ先》
くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学
演奏芸術センター086-436-0300 FAX.086-436-0283
〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515 E-mail sakuyo.kikaku@ksu.ac.jp
http://www.ksu.ac.jp/ くらしき作陽大学 検索

メールマガジン配信開始！
くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学の QRコードで簡単登録！
演奏会・公開講座等の最新のイベント情報やお得な情報をいち早くお届けします。
SAKUYOメルマガ会員募集中
PCからはこちら！▶ https://j.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=sakuyokikaku

◎ 音大入試の傾向と対策を指導

音楽受験講習会

12/22[土]・23[日]

要予約

要参加費

◎ 気になる施設の見学や体験授業で、大学の雰囲気を知るチャンス

Open Campus 2013

春のオープンキャンパス

3/27[水] 13:00～16:00

要予約

▼お申込みはこちら

資料請求お申し込みは

フリーアクセスで申し込む
0120-911-394

Eメールで申し込む
nyushi.sakuyo@ksu.ac.jp

ホームページから申し込む
くらしき作陽大学 検索

入試日程

※詳しくは本学ホームページをご覧ください。

一般Ⅰ期入試

出願期間
1/7[月]～1/28[月]

試験日
◎音楽学部/音楽短期大学
2/1[金]～3[日]
◎食文化学部/子ども教育学部
2/1[金]・2[土]

一般Ⅱ期入試

出願期間
◎音楽学部/音楽短期大学
2/25[月]～3/15[金]
◎食文化学部/子ども教育学部
2/4[月] ～2/21[木]

試験日
◎音楽学部/音楽短期大学
3/21[木]～22[金]
◎食文化学部/子ども教育学部
2/27[水]

センター利用Ⅰ期、Ⅱ期入試

（食文化学部・子ども教育学部のみ）

出願期間
◎Ⅰ期
1/7[月]～2/8[金]
◎Ⅱ期
2/25[月]～3/15[金]

試験日
個別試験は課しません

くらしき作陽大学　作陽音楽短期大学

平成25年度作陽高校入試について

～今年度は、多くの受験生・入学生を募集しています～

TEL 0868-23-2188
FAX 0868-24-7802
sakuyo@sakuyo-h.ed.jp
http://sakuyo-h.ed.jp

一般入試を選択する場合
県立高校入試問題準拠
同レベルの学力検査です

面接入試を選択する場合
中学校でのがんばりと
個性と可能性を重視します

専願希望者への優遇
作陽高校で夢を叶える
熱い気持ちを重視します

各種奨学生制度の充実
保護者の皆様の
経済的負担を軽減します

個別進学相談実施中
お気軽に作陽高校渉外部
までお問い合わせください

1次入試全日程のご紹介

■出願期間　1月17日(木)～1月21日(月)
■試験日　1月29日(火)　■合格発表日　2月4日(月)

詳しくは、平成25年度生徒募集要項をご覧ください。

学園報に関するお問い合わせは
作陽学園事務局
学園報担当（企画係）
〒710-0292　岡山県倉敷市玉島長尾3515
tel 086-523-0822／fax 086-436-0283
Eメール sakuyo.kikaku@ksu.ac.jp